

ニューヨーク科学アカデミー東京会議を開催して

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/9178

ニューヨーク科学アカデミー東京会議を開催して

About the New York Academy of Sciences Conference at Tokyo

金沢大学医学部神経情報研究施設神経物性部

東 田 陽 博

ここには、本来、読む多くの人に感銘を与える、その書き手の哲学に根ざした一文をしたためるべきと思う。しかし、私は、この十全医学雑誌という、少なくとも日本全国の医学関係者の目にふれる機会のあるメディアを通して、3年前に日本ではじめて主催したニューヨーク科学アカデミー東京会議開催に到るまでのニューヨークアカデミー側との交渉の事実経過を書き残し、次に日本で主催し開こうとされる方の参考になるようにしたいと思う。このメッセージを書けるのは今のところ私しかいないし、またこの文がたった一人へのメッセージであるかも知れなくても価値があると考えからである。

ニューヨーク科学アカデミーは1817年に創立されて以来医学・薬学の進歩に貢献し、世界中の信頼を集めている権威ある学術団体で、数多くのカンファレンス(会議)を開催している。その内容は紀要(Annals)として発刊され、それぞれのテーマ(課題)について、高い評価を得ている。

そのアカデミーの会議を主催するためには次のステップを踏むことになる。

1. 会議の主旨等を含む、会議を開催したい事を述べた1ページほどの手紙をアカデミーへ送る。
2. (内容等がだ当と考えられたら)アカデミーからアプリケーション(申請)用紙が送られてくる(12ページ)。
3. 正式プロポーズを行う(12様の異なる用紙に書き、全部で26ページになった)。
4. 集会委員会の第一次投票結果がレビューワーのコメントとともに送られてくる。OKなら同時にサブコミッティー委員(アドバイザー)を知らせてくれる。
5. アドバイザー委員とともに、レビューワーの意見を参考に、プログラムおよび招待者の調整を行う。
6. 主催者が招待者(スピーカー)へ招待状を発送する。
7. スピーカーからの出欠の返事状況をアカデミーに逐

一通知。この時点でアカデミー側でこの会議企画を続行するか否かについて第二次決定がある。

8. アカデミーによる企業や政府への寄付集め開始(予算状況による第三次決定がある)。
9. アカデミーによる会議パンフレットの作成と発送(会議一般参加者の募集)。
10. アカデミーによる会議案内小冊紙(ブロンシェ)の作成と参加希望応答者への発送。
11. アカデミーによるスピーカーとポスター発表者のアブストラクトの作成。
12. 会議会場の設定、会費の徴収をアカデミーが行う。
13. スピーカーおよびポスター発表者の論文集めおよび紀要の作成(アカデミー側)。

以上のステップの中で、プロポーズから第一次決定まで、約2.5ヶ月を要した。また27人もの多くの人々がレビューをしていたことは驚きであった。幸、我々の提案は皆好意的であった。さらに会議がスムーズに運べたもう一つの理由に、2人のアドバイザーとして選ばれたサブコミッティー委員が、私達の研究室と交流のあるロックフェラー大学とコーネル大学の教授であった事による。

寄付金集めに関して、アカデミー側がアメリカで行う方法に従い、日本の製薬会社に直接手紙を出して集めかけたが、集まらなかった。そのうち、製薬会社のある方が、日本で国際会議の寄付金集めのやり方に変えた方が得策である事を教えてくれ、その方法に従った。

その他、ここでは一々名前をあげないが、多くの方々の御協力、御支援により可能であった事は言までもない。この紙面を借り、再度お礼申し上げたい。

最後に会議は、ほぼ私と同年令の40才台の若いアメリカ人が主催する事を知っていたので、その点では気後れすることはなかった。